

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

松本市美術館で3月  
から約4カ月間、松本  
市市政施行100周年  
記念事業として開催さ  
れた「草間彌生展」。  
大北地域でも多くの皆

さんの話題となった。  
1929年に松本に生  
まれ、無限に広がる網  
目模様の絵画や、水玉  
模様巨大な「かぼ  
ちゃ」などで世界的に  
評価されている前衛芸  
術家だ。

私が草間さんの作品  
と出会ったのは、シド  
ニー五輪の前年。大町  
市の故石沢清先生の自  
宅だった。テーブル上  
に約300枚の版画作  
品が積み上げられてい  
た。シドニーで個展を  
開催する資金確保のた  
め、制作されたもの  
だった。個人が購入し  
やすい価格を想定し、  
1作品5万円程度で購  
入できる初期の作品が

中心。「本人に頼まれ  
て断れなかった」「草  
間さんは、世界的に評  
価される芸術家にな  
る。これからの草間さ  
んの作品は大作が中心  
になり、将来手軽に購  
入できるこれらの作品  
は市場に出回らない貴  
重価値のあ

る作品にな  
るだろう」  
との助言も  
あり、地域の皆さんに  
何十枚か斡旋した思い  
出がある。  
松本地域にも多くの  
作品が提供され、松本  
市の井上テパート画廊  
でも特別販売会が開催  
されたほどだ。世界的  
に評価される芸術家

## 草間彌生展を鑑賞して、地域出身者の作品を地元に残す大切さを知る

は、最低1万以上の作  
品を残すのだそうだ。  
作品の価格は、市場原  
理だ。世界の市場での  
繰り返しの評価が、作  
品の評価を上げて行く  
のも事実。地域に多く  
の作品がある事は、大  
変魅力的で地域の財産

として語り繋いで行く  
はずだろう。前回開催  
された特別展は、草間  
さんの愛する「かぼ  
ちゃ」が無限に増殖す  
るミラクルームと電飾  
を使った幻想世界が表  
現された会場での鑑賞  
は、圧倒的な体験をし

ただと強く印象に  
残っていた。  
今回の特別展では、  
多くの色彩を操る色彩  
画家の才能が、更なる  
進化を遂げていると、  
心を捉えて離さないエ  
ネルギーを随所で感じ  
る事ができた。魂の芸

術家と評価される草間  
さんの止まらぬ絵筆か  
ら、今後どんな作品群  
が創造されるのか楽し  
みになる。草間さんの  
履歴を伝える情報で  
は、幼い頃悩まされて  
いた幻覚や幻聴から逃  
れるために、それらの

幻覚や幻聴を絵にし始  
めた事が芸術の世界に  
入ったのがキッカケ。  
渡米すると絵画や立体  
作品の制作にとどまら  
ず過激なパフォーマンス  
を実行。困難に立ち



記念写真コーナーの草間さん。伝えたい大切な想いが伝わって来るようだ

向かうために積極的に  
挑戦し続ける生き方に  
多くを学んだ鑑賞の1  
日でもあった。  
(NPO法人信州地  
域社会フォーラム理  
事・白馬村森上)